

第16回

日本女性腎臓病医の会

JSWN総会

Japanese Society of Women Nephrologist

日時

2018年 6月29日(金)

総会19:00~21:00(18:30 受付開始) 懇親会 21:00~22:30

会場

神戸ポートピアホテル 〒650-0046 神戸市中央区港島中町6丁目10-1

参加費 3,000円 (別途JSWN年会費2,000円を申し受けます)

事前の参加登録は必要ございません。当日会場に直接お越しください。皆様のご参加を心よりお待ちしております。

JSWN代表世話人

国際医療福祉大学病院
予防医学センター・腎臓内科

湯村 和子

第16回総会
当番世話人

坂井瑠実クリニック

坂井 瑠実

北野病院 腎泌尿器センター 腎臓内科

武曾 恵理

プログラム

地域活動報告

座長 片渕 律子 福岡東医療センター 腎臓内科

北海道、東北、北信越、関東、東海、近畿、中国、四国、九州・沖縄

JSWN研究活動奨励賞授賞式

●平成28年度受賞者経過報告

座長 濱田 千江子 順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院

林 香先生 慶應義塾大学病院 腎臓内分泌代謝内科

『ポドサイトにおけるエピゲノム変化とDNA損傷修復および慢性腎臓病との関連についての検討』

鳥巢 久美子先生 九州大学病院 腎疾患治療部

『尿細管のアルブミン再吸収におけるオートファジーの役割』

●平成29年度受賞者講演

座長 若井 幸子 東京都保健医療公社大久保病院 腎内科

小林 麻美子先生 福井大学医学部附属病院 腎臓内科

『G蛋白共役型受容体:GPR41, GPR43を介した短鎖脂肪酸の慢性腎臓病への治療応用』

遠藤 知美先生 北野病院 腎泌尿器センター 腎臓内科

『我が国における腎障害を有するANCA関連血管炎患者の、長期的腎予後予測に有用な組織学的パラメーターの評価と、これに寄与するサイトカインの検討』

主催 JSWN(日本女性腎臓病医の会)

事務局 濱田千江子 順天堂大学医学部附属 順天堂越谷病院
片渕律子 福岡東医療センター 腎臓内科
若井幸子 東京都保健医療公社大久保病院 腎内科

事務取扱い担当:株式会社ピーシーオーワークス

〒101-0048 東京都千代田区神田司町2-4-2 神田アーバンビル2階
TEL:03-3291-3636 FAX:03-3291-3635 E-mail:jswn_info@pcoworks.jp

特別講演

座長 湯村 和子 国際医療福祉大学病院 予防医学センター・腎臓内科

武曾 恵理

北野病院 腎泌尿器センター 腎臓内科

『腎臓病療養指導士認定制度の立ち上げとこれから』

～チーム医療をになう女性腎臓医への期待もこめて～

総会後懇親会

裏面もご覧ください。



第16回 JSWN総会

Japanese Society of Women Nephrologist

「腎臓病療養指導士認定制度の立ち上げとこれから」

～チーム医療をになう女性腎臓医への期待もこめて～

北野病院 腎泌尿器センター 腎臓内科 **武曾 恵理**

日本腎臓学会が長年計画してきた、CKD対策チーム医療推進の目玉である腎臓病療養指導士認定制度がいよいよ始まりました。この認定をうけるのは、今回は看護師(保健師を含む)、薬剤師、栄養士の三職種が対象となっています。2017年に開始された講習会には3回で合計約1200人の受講者がありました。2018年1月28日に第一回の認定試験が行われましたが、730人余の受験者の応募があり、そのうち、看護師が約60%、管理栄養士、薬剤師がほぼ20%ずつとなったようです。これから認定された方々がいよいよ活躍してもらわねばならないのですが、この制度の十分な活用を行うには、まだまだその内容の認知や、具体的な活用法の広報が、十分とはいえません。

私は、北野病院でかかりつけ医との連携診療システム(K2ネット)を運営する際に、職種横断のCKD対策チームを作っており、この方々の指導力を認定していただく何らかの制度があれば、モチベーションが上がるのと思っておりました。そういうこともあり、日本腎臓学会のこの企画の担当理事となったことで、制度設立準備の当初から杏林大学の要委員長とともに、あちこちの学会本部などを行脚することになったのは、やりがいのあることでした。しかし、かならずしもスムーズに事は運ばず、看護協会へのお願い、日本医師会への制度の説明などを通じて、学会横断、職種横断の制度を立ち上げる際のいろいろな重要ポイントや課題が見えてきました。それでも、なんとか第一回の認定が出来るところまで、それぞれ関係者全体のチームワークでこぎ着けたのは喜ばしいことです。一方、認定される職種の方々は女性優位で、チームをまとめる腎臓医も女性医師の出番が多くなりそうです。是非この制度の特徴を認知していただいて、その有用な使い方の方向性を我々から発信することを考えてはいかがでしょうか。

医療現場のみならず、新システム設立などの際のヒントになればと話題提供させていただきます。

